

星野・大坂ニュース

第 13 号

2026年6月1日



◇編集・発行／無実の政治犯 星野さん大坂さん全国救援会
◇連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋 2-8-16 石田ビル4階

◇頒価 200円 ◇毎月1回 第1月曜日発行 ◇会費 年間3000円
◇振替口座 (ゆうちょ銀行) 00140-7-635858 (星野・大坂全国救援会)
◇TEL 03-3591-8224 FAX 03-3591-8226 ◇Email : hoshinoosaka@gmail.com ◇ホームページ http://fhoshino.u.cnet-ta.ne.jp/



5・15 沖縄闘争の勝利引継ぎ 230人が中国侵略戦争阻止！大坂奪還を誓った（5月24日）

反戦闘争であらゆる反動ぶっ飛ばし 6・26星野国賠完全勝利へ

アメリカ帝国主義とイスラエルによるイラン侵略戦争開始から3カ月、でたらめな侵略戦争を許さない闘いが拡大しています。国会前だけでなく全国各地で民衆決起が始まっています。戦争を止めるのはいつでも労働者民衆の実力闘争です。

今年の5・15沖縄闘争は、激しい沖縄バッシングの中で既成勢力が闘いを放棄する中、不屈に闘う沖縄現地の人々と固く団結して「戦争を武力阻止する新たな沖縄闘争」の橋頭保を築く決定的な闘いを切り開きました。

こうした激闘を経て5月23日には迎賓館・横田爆撃でつち上げ弾圧と40年にわたり闘い抜いた須賀武敏さんの満期出獄を勝ち取りました。弾圧は打ち破れる！ 中国侵略戦争を絶対に阻止し、次は大坂さんを取り戻す。戦時下の激闘を闘いぬいた地平に確信を持ち、6・14首都大デモで高市倒そう。6・26星野国賠控訴審判決に集まろう。

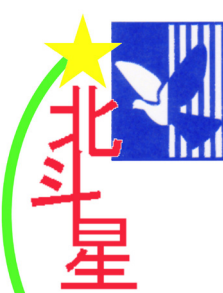
再審法改正は国会審議に移りました。最悪の内容です！ 冤罪者は、救われません！ 法務省、検察は冤罪者を救うどころか、再審無罪を出させない法改正を通そうとしています。仲間のことを思うと心底、怒りと許せない気持ちでいっぱい！

▼検察の不服申し立ては原則禁止にしよう！「十分な根拠がある場合に限り」抗告できると付け加えている。理由をつけては抗告してきますよ！ 私は即時抗告により、釈放される10分前に刑の執行停止が取り消され、天国から地獄に落とされて、一生忘れないです！

▼証拠開示も、再審請求理由との関連性、開示の必要性に限られる。リストについては対象範囲が限定されて弁護側は見られない。こんなひどい話がありますか！ 証拠は検察だけのものではない！ 平等に全ての証拠を開示すべきです。目的外使用は再審妨害です！

▼冤罪者が無実を信じてもらうには、支援者、マスコミに裁判資料を読んでもらう。弁護士が専門家に相談するためには、裁判資料を見てもらう。この当たり前のことを妨害するのです！

▼法制審議会のメンバーに、冤罪犠牲者を入れない。おかしいでしょう？ 誰のための法改正ですか？ 冤罪者の声を聴いてない。獄内外の意見を議員さんに届けて、国会で読み上げ欲しい。



大阪東住吉事件冤罪事件／再審無罪 青木恵子

今月の紙面

5・24全国集会報告 基調報告など	…2
5・24集会 弁護団報告	…3
5・24集会 共同代表あいさつ	…4
5・24集会 参加者の決意表明	…5
沖縄闘争報告／東拘申し入れ報告	…6
絵画展 東京南部／土浦／香川	…7

星野・大坂全国集会かちとる

帝国主義打倒・大坂奪還へ一丸

救援会は5月24日「星野文昭さん獄死7年 国賠完全勝利 大坂正明さん絶対奪還 控訴審決戦へ 全国集会」を東京・葛西区民館ホールで開催し、全国から230人が結集しました。

集会の冒頭、1週間前に闘いぬいた5・15沖縄闘争のビデオを上映しました。米日による中国侵略戦争と真つ向から対決する渾身の戦闘的デモの様子が映し出されると、新たな沖縄闘争の発展を展望させる闘いの映像に会場には「こういう実力闘争で高市政権を倒そう」との気持ち

が満ちました。さらに集會前



大坂解放求め、直ちに東京高裁包囲デモをうちぬく (5月28日 法務省前)

日の5月23日、40年に及ぶ迎賓

館・横田爆発物取締罰則違反でつち上げ弾圧と闘い、ついに横浜刑務所から満期出獄した須賀武敏さんの様子も映し出されました。弾圧を粉碎し「戦列復帰」を宣言する須賀さんの力強い姿に、会場は感動の拍手と「次は大坂さんを取り戻すぞ」との思

いがあふれました。

集會は、こうした闘いの地平と皆の思いを一つに、「中国侵略戦争を阻止し絶対に大坂さんを奪還する」「今こそ実力闘争で帝国主義を倒そう」と戦闘的気概あふれる発言が続き、高市政権打倒の6・14全国反戦集会とデモを闘おうと確認しました。

基調報告 (要旨)

「復帰」54年の5・15沖縄闘争は、あらたな安保・沖縄闘争の展望を切り開く画期的な闘いを

実現した。それは没落するアメリカが、中国を叩き潰すことを公然と国家戦略に据え、世界戦争を拡大している中、中国侵略戦争を労働者民衆の怒りの実力決起で具体的に阻止する闘いの展望だ。いまこそ星野・大坂精神を發揮し、実力闘争で帝国主義の打倒、社会の根底的変革に突き進もう。その闘いの中に大坂正明さんの奪還、星野国賠完

全勝利の道がある。

控訴審開始までに何としても大坂さん解放署名を1万筆達成し、控訴審闘争で大坂さんを奪還しよう。

5月14日に東京拘置所に処遇改善の申し入れを行った。イラン侵略戦争・中国侵略戦争情勢の中で、戦時下弾圧、戦時下の獄中処遇が強制されている。処遇改善を勝ち取る闘いを前進させていこう。未決勾留9年という超長期勾留は絶対に許されない。大坂さんと固く団結し、命と健康を守り抜く闘いを喫緊の課題として取り組もう。

大坂正明さんの集会メッセージ (抜粋)

5月23日に須賀武敏さんが出獄されたことと思います。この場から一言送らせてください。須賀さんおめでとうございます。病身に鞭打って不屈に貫徹した獄中闘争の勝利は見事です。

1カ月後に星野さんの控訴審判決が出るということです。基本的には一審判決を踏襲するのではないかと思います。この勝利の歴史的・画期的な意義を否定することはできません。この勝利は、あらゆる収容施設の一

定の医療改善を強制することは間違いないところです。全国救援会はこの勝利に自信をもって、これからの反戦闘争の勝利に活かしてほしいと思います。

私は今、東京拘置所の施設や処遇が、他の施設などに比べると極めて劣悪なんだということを入所9年目にして思い知らされています。水戸刑務所で闘いぬいた十亀弘史さんが、『無

罪』4月号で述べているように、刑務所のほうがはるかに開放的だということです。東京拘置所は監視・管理に特化した構造のため、極めて閉鎖的であり、景色と言えぬものは奪われています。プラント以外の花や木は見ることができません。そのプラントでさえ、コロナ以降は更新されず、その多くが撤去されています。つまりこの東京拘置所は、建物や処遇が被収容者の人間性・人権といったものを全く考慮していないところなのだということ

司法制度の根幹にかかわる、未決勾留者の「推定無罪」論が否定されることが重要な問題です。東京拘置所の当面の改善として建物については無理ですが処遇については変えられます。処遇改善を要求していきたく思います。外からの支援もお願いしたいと思います。

6・14 全国反戦集会・首相官邸デモ

6月14日(日) 午後1時、東京・芝公園23号地

主催 改憲・戦争阻止！大行進

大坂裁判弁護団報告

戦時下の闘いで奪還する

西村正治弁護士



大坂さんに対して許しがたい一番

懲役20年の判決を出したのは2023年12月です。この間、弁護団は総計1000ページに近い文書を裁判所に提出し、一審判決がいかにてためであるか、大坂さんが絶対に無罪以外のなものでもないことを徹底的に東京高裁につきつけてきました。一審判決が自らが行った法廷での審理内容を一切認めず、50年前の検察官調書のみによって有罪認定したというあまりにも不正義極まりないものであったため、弁護団の控訴理由を簡単に切つて捨てることができず、時間を費やしていたらどうと考えられます。しかし、第1回が始まるのは時間の問題です。裁判が始まれば、対決局面は一気呵成に進行します。

トランプ、高市による世界戦争、中国侵略戦争が開始されている現在、戦時下の治安弾圧体

制の下でそれを食い破つて勝利を勝ち取つていかなければなりません。改めて中国侵略戦争阻止、安保沖縄闘争の重要な一環として大坂裁判控訴審闘争を勝ち抜きましょう。なんとしても大坂さんを奪還しましょう。皆さんとともに力を合わせて弁護団は闘います。

いまずぐ解放を

山本志都弁護士

須賀さんが出獄しました。下獄から8年、決して簡単な闘いではありませんでした。病氣と闘い、それを打ち返す中で勝ち取られた出獄です。大坂さんは須賀さんへのメッセージで「病氣の治療をしつつ闘争現場に復帰」を望むと書いていました。重たい言葉です。弁護団として、大坂さんが闘争現場に復帰する、奪還するということを実現するためには控訴審で地裁判決をひっくり返さなければなりません。

大坂さんはすでに身柄拘束が始まってから9年が経過しています。接見で大坂さんに「自分は9年間、地面を踏んでいない」



下獄から8年、決して簡単な闘いでは

と言われました。自然との交流が全く奪われている。日常のあたりまえの行動がすべて奪われたなかに大坂さんはいまいます。

5月22日に保釈請求をしましたが、大坂さんは無実です。無罪推定の未決被拘禁者の勾留は、裁判を維持するために許されているに過ぎません。罪証隠滅の恐れもあります。一審判決から2年半も放置されているのは、問題だらけの判決を控訴審でどう扱うか悩んでいるからです。でも、それは裁判所の都合です。こんな長期の未決が許されてよいか。直ちに保釈すべきです。

大坂さんは様々な体調不良と闘っている。拘留所の中の人権侵害は戦時下でますますひどくなっています。人権侵害と闘い、命と健康を守り抜きましょう。

星野国賠弁護団報告

国のあがき許さない

岩井信弁護士



大坂裁判の期日がいまだに決まら

ないというのは異例中の異例だ。一審がいかにかいど判決で、裁

判所がそれをすり抜けてきたかが、高裁で問われることになった。追い込んでいこうと思う。

星野国賠も同じ問題に直面している。控訴審は、一審で敗れた控訴した国が「今意見書を作成しているの待ってください」という異例の裁判になった。国はなりふり構わず自らの責任逃れをしようとしている。一審での主張と正反対のことを、臆面もなく意見書に書いてきた。それが「手遅れだった」だの「午後11時40分段階で重篤だった」という、星野さんの死の核心部分だ。だから、私は「なりふり構わず」と言っている。

刑務所の医療で問われているのは、医師というのは誰なのか、医師は何を守るのか、ということだ。刑務所の医師は受刑者ではなく国を守っている。ここに医師の誓いはない。あるのは政治判断だけだ。

星野国賠は医療の本質は何かを問う裁判だ。星野さんのためであると同時に病気を患い、苦勞し、苦しんでいるすべての受刑者と共に闘っている裁判だ。それが星野精神だと私は思う。

反動の牙城・東京高裁で勝利の判決を勝ち取りましょう。

培った民衆の力で勝利へ

和久田修弁護士



徳島刑務所はわざと星野さんのが

んの発見が遅らせ、仮釈放を却下させたくて時間をかけて医療センターにもつていき、そのうえでひどい医療施設の中で再開腹をせず、止血もせず、見殺しにした。この経緯に改めて怒りを持っていきます。控訴審でも私たちは皆さんの支援の力で国を追い詰めた。星野さんの死の画像を明らかにしてきた。このことは皆さんとともに自信をもって確認していききたい。

大坂さんもそうです。2年も裁判が開かれない、裁判所もどうしていいかわからない、こうして国を追い詰めている。こういった力は皆さんとともに歩んできた何十年の中で培われてきたものだと思う。

まずは6月26日、控訴審の判決の中で勝訴を勝ち取り、天国にいる星野さん、星野さんに関わってきた皆さんにまず届け、そして辺野古で闘っている皆さんにも届けたい。

共同代表あいさつ

辺野古事故をめぐる闘争
庄殺報道許さず闘おう

浅野健一



不屈の
沖縄闘争
に連帯し、
星野さん
と大坂さん

んの裁判を支援する統一組織が誕生して1年がたちました。この間、米国はベネズエラ、イラン侵略戦争にうって出て、虐殺・破壊を繰り返しています。高市政権と記者クラブは、恥知らず

にもこの戦争を支えています。

私は5月16日から20日まで沖縄で取材しました。17日には那覇市内で「同志社国際高校生徒水死報道」をテーマに、この事故についての取材・報道のあり方を問う学習会を行いました。

事故を受けて沖縄の反基地闘争に対する激しいバッシングが巻き起こっています。遺族の発信はまったく自由ですが、マスメディアがそれをどう報道するかは別次元の問題であり、政治的に利用されてはなりません。

5月22日、松本文科相は記者会見で同校の教育内容が教育基本法違反であると断じました。同志社の創立者・新島譲の建学

精神、民衆の反戦平和の願いを

極右の高市政権とキシャクラブが踏みこっています。この学習会は右翼・日本会議らの激しい妨害がありました。約20人の参加でやりぬきました。

18日には、改憲・戦争阻止！大行進の仲間と一緒に辺野古新基地反対闘争の現場を訪問し、ともに座り込んで工事車両を止めました。

大坂さんには、訪沖に先立って4月15日に面会してきました。元気な様子でした。沖縄の報告にまた面会に行きます。何としても大坂さんを解放したい。星野さんの無念をはらしたい。これから共に闘いましょう。

メッセージ（抜粋）

大坂正明さん親族 佐藤政直さん

正明さんは、裁判が確定していない未決の立場でありながら、9年という、あまりにも長い時間を拘束され続けています。この9年という長さそのものが、すでに異常ではないかと思っ

ています。この国の人権感覚そのものが問われている問題ではないかと思っ

ることや身体を動かす機会まで制限されていると聞いています。未決の立場にある人が、長期に拘束され、その上健康を支える最低限の環境まで奪われているのだとすれば、それは人権と尊厳の問題ではないでしょうか。親族として、正明さんに、直ちに適切な医療と、人間らしい生活環境が保障されることを心から求めます。

正明さんもう高齢者です。元気なうちに、自然の光を浴びてほしい。ふるさとの帯広にも連れて帰りたい。私たちに必要なのは、さらに大きな声であり、広い連帯です。これからも力を貸してください。何としても生きて取り戻したい。そのために今後ともよろしくお願いします。

沖縄・日本を出撃基地に
させない闘い貫こう
救援運動の飛躍で勝利へ

星野暁子



16日から18日まで、沖縄に行ってきました。

辺野古へ行き、いつも座り込んでいるおじい、おばあと一緒に、「改憲・戦争阻止！大行進」の仲間と約300人で座り込み、工事の車両をストップさせました。

17日には勝連分屯地抗議闘争を行い、「第7地对艦ミサイル連隊の解散、陸上総隊演習の中止」など申し入れました。侵略のための銃を取らず、侵略を阻止するために私たちとともに銃をとることを呼びかけました。

1971年、ベトナムに向かって沖縄の米軍基地から爆撃機が次々に飛び立ったように、今沖縄の米軍基地からイラン侵略

の部隊が出撃しています。血債と連帯をかけ、沖縄を、日本全土を出撃基地にさせない闘いを実現しましょう。

文昭を殺した国家権力を絶対に許さない。国家権力を追及する国賠訴訟を6年がかりでやってきました。そこで分かったことは、医療センターと徳島刑務所の無責任極まりない在り方で、文昭の命を救おうとする医療は全くありませんでした。控訴審勝利をなんとしても勝ち取りたい。6月26日の判決日にぜひ集まってください。

大坂裁判は、でっちあげ調書だけで懲役20年という一審判決を弁護団と救援会の闘いが決定的に追い詰めています。1万人署名を集めましょう。「大坂の勝利は、沖縄・反戦闘争の勝利の中にある」と大坂さんは言っています。今日の中国侵略戦争情勢下で、星野・大坂闘争も根底的飛躍を求められています。民衆の闘いを鼓舞激励し、6・14大反戦デモを実現しましょう。

星野国賠控訴審 判決期日

6月26日（金）午前11時、東京高裁（717号法廷）

午前9時30分より裁判所前街宣／午前11時30分、弁護士会館講堂クレオCにて記者会見と報告集会

決意表明

反戦闘争に星野・大坂魂を

救援会京滋 田村祐二

私も京都、関西で闘いながら、星野さん虐殺弾劾の闘いと大坂さん奪還のために、大坂さん解放の115筆の署名を持ってかけつけました。

イラン侵略戦争、中国侵略戦争に向かうトランプ・高市打倒の闘いの中に星野さん、大坂さんの闘いを魂として吹き込み、6・14の大結集に向かって京滋の地で断固闘う決意です。

絵画展で学生を組織

救援会埼玉 皆川学

埼玉では、星野絵画展を浦和市、加須市、狭山市でやってきました。心がけているのは、71年渋谷闘争を含んだ星野さんの全生涯のパネルと沖繩の現状のパネルを同量提示することです。4月に行った浦和絵画展では、

街宣でビラを見た1人の学生が参加しました。沖繩の現状やイランに落とされた爆弾で小学生が殺されたこと、その船は横須賀から沖繩を経由して行ったという図を熱心に見てくれた。そして「こんなことは初めて知りたい」と言ってくれました。

絵画展の企画で4月18日に浅野健一さんの講演会を行いました。そこで浅野さんが「安倍首相を狙撃した山上徹也さんへの無期懲役判決は、革命を許さない権力の意思だ」と言われたのは非常に印象的でした。渋谷闘争と通底する問題です。戦争の時代、大坂裁判闘争もその認識を持って闘っていききたい。

怒り解き放つ結集軸に

救援会東京南部

大野八千代

須賀さんの現場復帰がうれしくてなりません。今年の沖繩闘争は中国侵略戦争阻止の沖繩闘

争として闘い抜かれました。東京南部でも、5・15沖繩闘争に向け、4月に絵画展と反戦沖繩集会を開催しました。

今年の絵画展は、来場者の姿勢が例年と違っていました。今年星野・大坂闘争に触れて「弾圧は許せない」「星野さんは国に殺されたんですね」と、他人事ではなく自分事としてとらえ、同情ではなく怒りで共感するのです。私達はこの怒りを集めて、民衆が正当な暴力として解き放つ結集軸になりましょう。

首都東京で沖繩闘争を爆発させる闘いに打って出ます。

帝国主義を怒りで倒せ

東京労組交流センター

山口弘宣

帝国主義は世界を支配し、植民地支配を貫徹し、イラン人民を虐殺したり、ありとあらゆる残虐のことをやって自らの延命のために世界戦争をやるうとする。こんな帝国主義を我々は許してはいけません。

星野さん、大坂さんは帝国主義の支配を打ち砕くため、血債の思想で武装して闘いに立ち上がりました。血債の思想とは労働者人民が決起する思想です。

これを取り戻し、国家権力と体を張ってぶつかろう。6・14は単に多くの人が集まる集会ではない。帝国主義をこの手で倒さなければこの世界は破滅する。

6・14を闘い抜き、7月の国鉄1047名裁判を闘おう。日帝高市と米帝トランプを倒し、世界革命めざして闘いましょう。

6・14の巨大な爆発を

改憲・戦争阻止！大行進

本山隆介

大行進は、大坂さんが真に求める反戦闘争、沖繩闘争の爆発を実現するため、全力で5・15を闘いぬいた。全基地撤去・日帝打倒のスローガンのもと、中国侵略戦争阻止の安保・沖繩闘争の展望を完全に握りしめた。

その高揚と確信をもって6・14全国集会とデモを打ち抜き、大坂さんを絶対に奪還する決意だ。6・14闘争は、一つはイラン侵略戦争、中国侵略戦争・世界戦争の元凶である帝国主義を打倒する闘いです。二つに、いま改憲が問題となっているのは、日帝もまた既存の支配体制を破壊せねば中国侵略戦争に労働者人民を動員できないからだ。支配の在り方をめぐる激突に勝ち

抜く闘いを実現しよう。実力で高市を打倒する闘いを実現しよう。首都東京を揺るがす戦闘的デモをやるう。

ブルジョア国家の打倒を

全学連

私は5月14日、東拘申し入れ行動に参加しました。その後、大坂さんと面会しました。第一印象は、情勢認識と路線性において、外にいる人以上にしっかりといた方だと思いました。革命党の真の強さというのを実感できた良い面会でした。

私は5月、勾留理由開示公判や三里塚の裁判、須賀さんの出獄集会に参加しました。そのたびに裁判所の中立、法の下の平等、三権分立は幻想だと思わずにいられない。裁判所では我々を公安警察が監視している。司法が国家と癒着している。これがブルジョア国家だ。大坂・星野闘争は沖繩、三里塚、福島、原発、反基地運動、部落解放や入管との闘いと一体のブルジョア国家権力に対する闘争です。人々の力で革命をかちとるその日まで、全学連は星野・大坂闘争に連帯し、国家権力に対して日和らず闘います。

控訴審勝利！ 大坂さん解放！

東京高裁包囲デモ&署名提出行動

6月18日(木) 正午、日比谷公園霞門集合！東京高裁包囲デモ／午後2時、東京高裁申し入れ&署名提出行動

中国侵略戦争を實力で阻止する 新たな安保・沖縄闘争切り開く

5月16、18日、改憲・戦争阻止！大行進沖縄が主催した「復帰54年5・15沖縄闘争を救援会も闘いました。この3日間の闘いは、沖縄の反基地闘争への激しい誹謗中傷が日本中で吹き荒れる中、「中国侵略戦争を絶対に止める」「イラン侵略戦争の出撃拠点である現実を許さない」と、青年先頭に意気高く激しく闘われ、全基地撤去・日帝打倒の實力闘争として、新たな沖縄闘争の展望を示しました。



沖縄県庁前に登場し大坂さん解放を訴える（5月16日）

戦争阻止・大坂奪還訴え街宣

初日の那覇市内デモに先立ち、デモ出発点の県庁前広場で大坂さん解放署名街宣を行いました。「戦争が始まった。出撃拠点の沖縄は戦争阻止の最前線だ。星野さん、大坂さんのように闘い、一緒に戦争を止めよう」。全国の仲間約30人で訴え、60筆の署名が集まりました。



中国侵略戦争絶対阻止！ 戦闘的なデモが国際通りを席卷し飛び入り相次ぐ（5月16日）

続く国際通りデモは、沖縄県で四半世紀ぶりというヘルメット・スクラムデモ。戦争阻止の本気の訴えが地元の人々への強いアピールとなり、青年らが集

団で次々とデモに合流しました。コザ暴動の地で機動隊と激突

2日目は反基地闘争。普天間、嘉手納をめぐり、かつて沖縄の労働者の力で基地撤去の實力闘争が闘いぬかれた地に全軍労をほうふつさせるヘルメット部隊が登場し、闘いの記憶を呼び覚ます力強い集会とデモを、機動隊と激突しながら貫徹しました。



嘉手納第2ゲートを前に機動隊と攻防（5月17日）

3日目は辺野古現地闘争。「1年に1度、工事が完全に止まる日がある」と地元の人から期待の声が上がる中、3000人の隊列で今年も工事車両を1日止めました。中国侵略戦争の「重圧」を跳ね返す力強い沖縄闘争の展望を切り開いた3日間でした。

人間らしい処遇を！ 東拘申し入れ

5月14日、全国救援会は東京拘置所の処遇が突然劣悪化したことを弾劾し、抗議・申し入れ行動にたちました。対応に出てきた庶務課長補佐に対し、集まった25人の仲間が激しい怒りを爆発させて「処遇の改善」「即時解放」を迫りました。

大坂さんは東拘が「節電」と称して昼間に消灯を行っていること、人手不足を理由に室外運動の機会を3分の1に減らしたこと、廊下のカーテンを閉めっぱなしにしてかろうじて見えていた空すら奪われたことを「被収容者への虐待だ」と訴えまし

た。さらに東拘の食事が、いかに被収容者の健康を顧みないものであるか、具体的なメニューを示して弾劾しました。9年間も獄中で仁王立ちする大坂さんを何としても取り戻したい、絶対に健康で奪還したいとの強い思いを胸に、救援会の小泉義秀事務局長、星野暁子共同代表や関西、千葉、神奈川の仲間が入書を読み上げ、当局弾劾の怒りの声をたたきつけました。

莫大な軍事費のために被拘禁者の健康と生活のための費用を削減し、命も人権も顧みない法務省・東拘を許さず闘おう！

安保・沖縄・大坂奪還の絵画展企画

6月20日（土） 宮古島と杉並を結ぶ講演集会

午後6時30分 セシオン杉並1階展示室
講師 清水早子さん（ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会共同代表）／岩井信弁護士（星野国賠訴訟代理人）

6月20日（土） 大坂裁判学習会

午後1時 サルビアホール3階ギャラリー（横浜市鶴見区民センター）／講師 藤田城治弁護士（大坂裁判弁護団）

6月21日（日） 「日本を戦場にするな」 上映会

午後4時 高槻市立生涯学習センター第1会議室

絵画展

「戦争止める」絵画展

改憲・戦争阻止！大行進東京南部

大野八千代

大井町の品川区民ギャラリーで4月25・26日の2日間「沖縄をふたたび戦場にするな！ 反戦貫いた無実の政治犯 星野文昭絵画展」を開催しました。

日帝高市政権は、米帝トランプと共に沖縄を戦場にする中国への侵略戦争に突入しています。日本が主体となって始める戦争が「戦争する側に立つか、戦争を止める勢力になるか」の選択を迫っています。星野さん、大坂さんが闘った1971年渋谷



闘争を引き継ぐ沖縄反戦闘争を首都東京で爆発させようと、スタッフ一丸で取り組みました。

沖縄で星野絵画展に行ったという女性は「また星野さんと出会った、運命を感じる」と来場。星野さんと同じ歳という女性は

「渋谷では違う色のヘルメットをかぶっていた」そうです。来場者が大坂さんに送る絵手紙を書く「体験コーナー」は今年も

大好評で、書いた絵手紙は東京拘置所の大坂さんに送りました。

2日目は同会場で「反戦沖縄集会in星野絵画展」を開催。日本軍による侵略戦争の映像を視聴後、日帝によるアジア侵略の歴史とアジア人民の不屈の民族解放闘争と革命の歴史を郵政労働者が提起しました。そして国家権力による暴力・抑圧・支配に抵抗する人民の暴力を断固支持する立場を明確にし、闘うアジア人民と連帯すること、中国侵略戦争阻止・沖縄を戦場にならない闘いは日帝打倒の闘いであることを確認しました。

南部の集会に初参加の学生、青年が発言し、戦争阻止でたまたかと宣言しました。3・8国際婦人デー集会にも参加した女性労働者は「皆さんの闘いに連

帯します」と発言、6・14芝公園にも参加します。

戦争を止める力が集まっています。この戦争情勢で星野国賠勝利と大坂さん無罪奪還を勝ち取り、日帝打倒へ一気に攻め上りましょう！

絶対反戦絵画展パート7

茨城の会 日下部伸

4月21日から6日間、JR土浦駅前の市民ギャラリーで絶対反戦！「星野文昭・天国からの絵画展」パート7を開催しました。2018年以来この拠点会場での定点&定期の絵画展は23回目となりました。友情出展者11名、113人が来場しました。初日に、たまたま来場した筑波大学生（トルコからの留学生）と話が弾みました。その彼が、最



終日には同じトルコからの留学生と共に再来場。中国への侵略戦争阻止、沖縄・琉球弧を再び戦場にするな！ イラン軍事攻撃、パレスチナ虐殺許すな！のパネルの前で討論。話しは反帝・反スタまで及びました。

目指せ！ 絶対反戦の星野絵画展。国会前等で平和を訴えている体制内市民運動の多くの人々へ、絶対反戦の階級的大衆運動の入り口として星野絵画展運動を全国各地で展開しよう！

絵画展×反基地で闘い拡大

香川 片山元久

星野さん、大坂さん、奥深山さんたちの闘いに学び肉薄することが、今日、私たち一人一人に問われています。中国侵略戦争・世界戦争の放火者アメリカ帝国主義・トランプと日本帝国主義・高市を串刺しにして打倒すること、そのために5・15沖縄闘争に連帯してその息吹を地元を持ち込み、6・14全国闘争・首相官邸大デモの爆発につながることを獲得目標として、今回の絵画展に臨みました。

5月22～24日までの3日間の開催中に150名の来場があり、

その半数が海外からの旅行者でした。準備していたパンフレット資料等が最終日にはなくなるほどでした。絵画を鑑賞し星野さんの戦争反対と人間が人間らしく生きられる社会を一緒につくろうという思いに触れ、「何か私にできることはないですか？」「大坂さんは今どうされていますか？」と語りかけてくれる人も多数現れました。

私たちは連日、繁華街での街頭宣伝を行い、地元からの来場も多数得ることができました。マイク宣伝をするスタッフに近づき「高市政権打倒！」と拳を挙げる人もいました。

5月24日には、自衛隊ヘリ離発着訓練が近くの病院で強行されました。中国侵略戦争突入での訓練です。急遽、絵画展スタッフ有志で弾劾行動に立ち上がり、中国侵略戦争阻止！を叩きつけました。

5月28日、高松港に自衛隊輸送艦「くにさき」が入港します。私たちは自衛隊艦船の高松港入港阻止！ 中国侵略戦争阻止！ 自衛官は侵略の銃を取るな！ を訴える闘いをします。その地平を拡大して香川からも大勢で6・14全国闘争に結集します

インフォメーション

- 星野文昭・暁子 絵と詩展（東京東部）
 - 6月6日（土）午後1時～午後6時
 - 6月7日（日）午前10時～午後6時
 - 6月8日（月）午前10時～午後1時
 - JR新小岩駅南口ビル6階えきにこわ 多目的ひろば
 - 主催 東京東部無実の政治犯星野さん大坂さんを取り戻す会
- 帝国主義打倒・大坂正明さん解放！渋谷街宣
 - 6月11日（木）正午～午後1時 渋谷駅ハチ公口駅前広場
- 6・14全国反戦集会 首相官邸デモ
 - 6月14日（日）午後1時 芝公園23号地
 - 主催 改憲・戦争阻止！大行進
- 大坂正明さん解放！東京高裁申し入れ・署名提出行動
 - 6月18日（木）正午 日比谷公園霞門集合～デモ、街宣
午後2時 東京高裁申し入れ・署名提出行動
- 沖縄を出撃基地に、戦場にするな！星野文昭・暁子絵と詩展
 - 6月19日（金）正午～午後7時
 - 6月20日（土）午前10時～午後6時30分
 - ★午後6時30分 宮古島と杉並を結ぶ講演集会
 - 講師 清水早子さん／岩井信弁護士
 - 6月21日（日）午前10時～午後5時
 - セッション杉並1F展示室（丸ノ内線東高円寺駅徒歩5分）
 - 主催 無実の政治犯星野さん大坂さん救援会東京西部
- 横浜星野絵画展&大坂裁判学習会
 - 6月19日（金）～21日（日）午前11時～午後7時
 - ★大坂裁判学習会 6月20日（土）13時
 - 講師 藤田城治弁護士（大坂裁判弁護団）
 - 鶴見区民センター サルビアホール3階ギャラリー（JR京浜東北線鶴見駅東口徒歩2分）
 - 主催 星野・大坂救援会神奈川
- 大阪北摂・星野文昭★暁子 絵と詩展
 - 6月20日（土）、21日（日）午前11時～午後6時
 - ★6月21日（日）午後4時 「日本を戦場にするな」（森の映画社）上映とミニ討論集会
 - 高槻市立生涯学習センター第1会議室（高槻市総合センター3階）
 - 主催 大阪北摂・星野さん・大坂さんを取り戻す会（準）
- 加須絵画展
 - 6月20日（土）午前11時～午後8時
 - 6月21日（日）午前9時30分～午後7時
 - 市民プラザかぞ1階視聴覚ホール
 - 主催 星野文昭絵画展 加須実行委員会
 - 星野さん大坂さん埼玉救援会
- 戦雲払う 星野文昭絵画展（福岡）
 - 6月27日（土）午前10時～午後5時
 - 西南学院大学西南コミュニティセンター多目的室（地下鉄空港線西新駅徒歩5分）
 - 主催 星野さんを取り戻す会・九州
- 獄中44年 星野文昭絵画展（大阪市）
 - 6月27日（土）午後4時～午後8時
 - 住吉隣保館寿（南海高野線住吉東駅東口すぐ）
 - 主催 無実の政治犯 星野さん・大坂さん取り戻す会大阪市

大坂正明さん解放署名

5月29日現在 **9410筆**

全国の救援会の力で控訴審開始までに1万筆集めよう



「五月、雨の日、帰る道の会話」

絵 星野文昭 2010年制作

「話すことの根源的な喜びを表現している絵なんだ」と、文昭は言っていた。制約を受けていたからこそ喜びの大きさがわかったのかもしれない。文昭にとって絵は、「奪われたものを奪い返す」という営みでもあった。

星野暁子

謝罪と訂正

東拘の処遇に関する記事について

本紙12号で、東京拘置所の大坂正明さんへの処遇の劣悪化を弾劾する記事の中で、「屋外運動が1/3に削減された」と記載しましたが、「屋外運動」という表現は正確ではなく、大坂さんの原文通り「室外運動」にすべきでした。大坂さんの手紙の内容を編集の段階で勝手に「屋外運動」に言い換えてしまったもので、内容を正しく伝えることができませんでした。こうした変更は絶対に許されるものではなく、大坂さんと読者に深くお詫びします。

この書き換えは、大坂さんが強制されている非人間的処遇と大坂さんの闘いへの無理解に基づくものでした。大坂さんは「私にとって室外運動とは屋上のこと」と前置きしつつ、この屋上の「運動場」が縦5歩、横2歩しかない狭い鳥かごであることを弾劾し、「東拘には『屋外』などということがないので」「私はこの9年間、地上に降り立ったことはありません。『屋外運動』というあたかもグラウンドか庭での運動だと思ってしまいます」と編集の無理解と間違いを指摘しました。まったくその通りで、本当に申し訳ありませんでした。

私たちは、大坂さんの批判と真っ向から向き合い、国家権力・東京拘置所の大坂さんへの非人間的処遇を怒りをこめて弾劾し、大坂さんと一体となって闘うことを誓います。